

令和 4 年 2 月 15 日

松阪市議会議長 堀端 脩様

松阪市議会議会運営委員会

委員長 沖 和哉

令和 4 年 2 月 1 日（火）の 1 日間、先進地視察を実施いたしましたので、
下記のとおり報告いたします。

議会運営委員会視察報告書



日 時	令和 4 年 2 月 1 日（火）13：30～15:30（1 日間）
会 場	松阪市議会 第 1・第 2 委員会室（ZOOM によるオンライン視察）
テ ー マ	議会改革および議会 ICT 化推進について
視 察 先	愛知県知立市議会
参 加 者	議長 堀端 脩、副議長 深田 龍 議会運営委員会 委員長 沖 和哉 副委員長 松岡 恒雄 委員 橘 大介、松本 一孝、赤塚 かおり、坂口 秀夫、 山本 芳敬、濱口 高志、中島 清晴 以上 11 人
事務局職員	北河議会事務局次長、中口議事担当主幹兼議事係長
研修目的	DX ならびに ICT 化の推進が求められる昨今、現在およびこれからの地方 議会のあり方について見識を深めるとともに、議会改革の歩みを止めるこ となく進み続けるため、具体的な先進的取り組みを学ぶ。

1. 議員が議論し、行動する議会

議会改革のあゆみ（抜粋）

- 平成 22 年12月 議会改革特別委員会を設置
- 平成 24 年 2 月 第 1 回議会報告会を開催（参加者約 300 名）
→年 4 回、定例会ごとに開催。常任委員会単位での意見交換。
- 平成 25 年 3 月 議会基本条例を制定
- 平成 26 年 4 月 第 1 回政策討論会を開催し、市長に 6 つの政策提言書を提出。
- 平成 27 年 9 月 議場への大型モニターの設置と電子表決システムの導入。
表決の記録間違いを防ぎ、表決の明確な可視化が可能となった。
- 平成 28 年 2 月 災害発生時対応要領、行動マニュアルを策定。
→災害時における議員としての役割や行動を明確に規定。
- 平成 29 年 2 月 第 20 回議会報告会記念講演会
- 令和 元年 議会改革度ランキング全国 27 位
- 令和 元年 5 月 知立市議会 BCP（業務継続計画）の策定。
→大規模災害等の非常事態において、議決機関・市民代表機関としての迅速な意思決定や市民ニーズへの対応ができる議会機能の維持。
- 令和 元年 5 月 議員報酬等特例条例の制定。
→会議等の長期欠席および市民の信頼に反する行為をした場合の議員報酬および期末手当の減額を規定。
- 令和 2 年 2 月 会議における PC 等電子機器（私物）の使用許可。
- 令和 2 年 8 月 議会デジタル化のためのタブレット導入決定
- 令和 2 年 9 月 委員会条例および議会 BCP の改正
→オンラインによる委員会開催が可能となり、発災時や新型コロナウイルスまん延による非常時にも議会を止めずに開催が可能。
- 令和 3 年 2 月 議会デジタル化のためのタブレット導入・運用開始
→同時にペーパーレス会議システム、グループウェアを導入。
- 令和 3 年 4 月 議会モニター制度開始
- 令和 3 年 5 月 第 35 回議会報告会をオンライン開催
- 令和 3 年 8 月 第 1 回高校生議会開催
- 令和 3 年11月 マニフェスト大賞優秀躍進賞受賞

2. 議会デジタル化の推進

10 年前から ICT 化の議論を進めてきたが、普段電子機器を活用していないものには利便性や必要性の理解が進まず、議会全体としての活用が広がらなかったが、コロナ禍が転機となり、デジタル化の有用性が認知され、一気に進んだ。

紙資料の削減、管理労務費や事務作業の削減、データの携行により市民への説明や情報公開での有効活用、情報の送受信の迅速化、時間場所を問わないオンラインでの会議開催など、議会活動全般や業務全体の迅速性と効率性が大いに向上した。ペーパーレス会議システムやクラウドの活用により、議会内の情報処理・共有・伝達・一元化、スケジュール管理が向上し、議会活動もより活発化した。

議会報告会等の市民とのかかわりにおいても、コロナ禍という非常時であっても途切れさせることなく継続ができ、また ZOOM（オンライン会議システム）を活用した報告会の開催や、Google Form の利用によるアンケート実施など、これまでの HP や MAIL での告知・募集等では反応のなかった状況を一変させる結果となり、新たな成果となった。年代もこれまでよりも若い層の方に参加いただき、初参加も多かったことから、新たな手法による新たな参加者を得ることができたターニングポイントとなった。

2-2 知立市議会 DX 推進 PT

DX 推進のためのプロジェクトチームを発足し、精通した議員とそうでない議員のハイブリッド構成とすることで、方向性の偏りを予防し、何がわからないのか、どこが不便なのか、どうすれば解消されるのかななどを整理する。事務局主導にせず、議員主体で運用や利便性の向上を協議検討していくことで、実情に応じた対応を目指す。

2-3 議会のデジタル環境

タブレット端末：iPadPro 12.9 インチ＊

ペーパーレス会議システム：SideBooks

グループウェア：サイボウズ Office

Wi-Fi 環境：SSID ステルス機能

通信費：1/2 公費、1/2 政務活動費

＊ 備品として購入し、Apple ペンシル、

カバーとともに各議員に貸与。



サイボウズ HP より



サイドブックス HP より

3. 市民に開かれた議会

市民福祉の増進に努める議会とは、市民との交流がどれだけあるかが重要。

議員個人としての交流はあれど、議会として市民とどのような関係を築いているか。このことから、より一層市民の声を聴くため、議会モニター制度と高校生議会を導入。

3-1 議会モニター制度

知立市議会の機能強化の一環として、市民の意見を活用し、よりよい議会運営を目指すための市民参画制度のひとつとして導入。公募、諸団体推薦の計7人の委員に委嘱し、議会の傍聴や市議会広報広聴に関してなど、多様なご意見をいただく中で、議会運営のブラッシュアップを目指すものであるが、委員からの意見は執行部への政策的な提言や要望に近いものも多く、議会運営に特化した議論となるには課題も多い。

3-2 高校生議会

選挙年齢の引き下げにより、政治や選挙が身近なものとなった高校生に、実際に議会活動を体験してもらう。地方自治への関心を高めてもらうとともに、高校生の視点から広くまちづくりについての意見を聞き、協議する機会を目的に開催。

市政50周年記念として市内各校に依頼し、高校生と議員と一緒に実施するフィールドワークや、議場や委員会での議論を通じて、多様な課題の抽出に向き合う。高校生と議員と一緒に解決方法を探ったり、高校生から議長への要望書が提出されたりと、幅広い活動を実施しているが、今後どのように政策へつなげていくか、どのような協議の場を作っていくかはこれからの研究課題である。

4. 所感

知立市議会において議会基本条例やICT化を協議されてきた時間軸は、松阪市議会とも通じるところがあり、基本条例を制定した時期もほぼ同時期である。そのうえで、知立市議会ではより実践的な改革の継続や新しい手法、新しい運用を図ってきた経緯があり、松阪市議会が議会改革の次なるステージを見据えるお手本として幾つもの刺激と気づきをいただいたと思う。

改革を止めない、議論を止めないという姿勢はもちろん、目まぐるしく変わりゆく時代の流れやコロナ禍といった新たな社会情勢も含め、いかにして地方議会が「変化を恐

れず」に進み続けるかは、どの自治体や組織にとっても最重要課題であろう。変わらずに守り続けるべきものは維持しながら、時代の要請に応え続けられる組織でなければならない。松阪市議会においては ICT 化推進プロジェクトチームはタブレット導入後に解散をしているが、間もなく導入後 1 年となり、さまざまな利便性の向上や運用面での課題解決など、今一度振り返って精査する中で、ブラッシュアップが必要である。

議会は 4 年ごとに市民からの負託を得てメンバーが入れかわる組織である以上、年代や経験値はもちろん、知見やバックボーン、政策や得意不得意も様々な構成となる。新しいテクノロジーの取り込みや未来を見すえた風土の醸成を図りつつ、今現在の市の在り方や多様な市民が求める政治のあるべき姿を反映していける「松阪市議会」を作っていくために、常に自問自答しながら議論を交わし続け、多様な背景を持つ個の集まりとしての組織運営を見出していきたい。

(文責：委員長・蒼水会 沖 和哉)

【各会派所感 抜粋】

知立市議会の議会改革についてのオンライン視察に参加させて頂いた。各定例会終了後の年 4 回の議会報告会の開催について、大変なご苦労があるのだろうと推察する。令和 3 年 2 月のタブレット導入後の 5 月、第 35 回議会報告会をオンラインで開催されたことについて敬意を表したい。オンラインによる委員会条例の制定や議会モニター制度、高校生議会の開催等、松阪市議会でも取り組むべきと強く感じた。

(副委員長・公明党：松岡 恒雄)

知立市議会ではコロナ禍で「書面・対面・接触」のリスクを回避する中で、「議論を止めない」、「活動を止めない」、「公開を止めない」ために、電子化・オンライン化の必要性を再認識し、準備がされている。タブレット導入後も議会のデジタル化は有事の際でも有効な手段であることが再認識されたことから、さらに有効に活用するためのプロジェクトチーム「知立市議会 DX 推進 PT」が発足している。

松阪市においても、開かれた議会を目指す上でタブレット・ICT の更なる運用や利便性の向上のために、検討を重ねる組織が必要ではないかと考える。また、松阪市議会でも様々な検討を行っている議会報告会の在り方の一つとして、リアルとオンライン参加も可能なハイブリッド方式の議会報告会開催に向けての早々の検討が必要である。

(政友会：山本 芳敬)

知立市議会DX推進PTは、第16回のマニフェスト大賞『優秀躍進賞』に選ばれた。運用や利便性の向上について、議員主導で検討する組織が必要ということで発足。DXに精通した議員と、そうでない議員の構成になる。便利に使いたい議員と管理したい事務局の間に齟齬が生まれた。内容はアプリのセキュリティ面が主に挙げられる。

松阪市議会では今後タブレットの活用が慣れれば、運用や利便性の向上を図ると思う。今日話を聞いてこれから起こりうる課題が想定ができ非常に勉強になった。

(市民クラブ：橘 大介)